（様式１）

令 和 ６ 年 度　　自　　己　　評　　価　　表

愛媛県立大洲農業高等学校
31

教育方針	「どこに出しても恥ずかしくない人間になれ」 「国家社会の役に立つ人間になれ」	重点目標	生徒一人ひとりを一層輝かせる教育の推進 －100年の伝統を受け継ぐ土魂とともに－ 〇豊かな心情と節度ある人間性を育む学校 〇自ら学び、挑戦し努力する力を育む学校 〇常に地域と連携している学校 〇安全・安心で信頼される学校
	【指導方針】 一人ひとりの生徒を見つめ、励ましを与え、たくましく生きる力を育む教育の推進 ・豊かな心情をもった節度のある人づくりの推進 ・自ら学ぶ態度を身に付けさせる教育の推進 ・チャレンジ精神を育む教育の推進 ・健康で明朗な心身の育成を図る教育の推進		

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
１ 学校経営	地域に開かれた学校、及び地域貢献活動の推進と学校教育活動の公開	・常に地域とともにある学校をめざし、各種開放講座の実施、地域イベントへの積極的参加、教育関係団体等への施設設備の開放等を行う。 ・ホームページに毎日の教育活動を公開し、生徒が生き生きと活動している様子を掲載する。 （1日閲覧数平均　A:600　B:400　C:200　D:150　E:100） ・各課の定期刊行物をタイムリーに掲載する。	B	・地域とともにある学校をめざし、感染症対策を視野に入れ、各種公開講座の実施や地域イベントへの参加はほぼ予定通り実施できた。また、教育関係団体等への施設設備の解放等も進めることができた。 ・ホームページの閲覧数は１日平均251カウントであった。一日の平均ホームページアップ数は2.0回。 ・各課の定期刊行物はタイムリーに掲載することができた。	・大洲高校との統合も視野に入れた各種開放講座の実施、地域イベントへの参加を工夫して行い、地域とともにある学校づくりを積極的に進めていく。 ・ホームページの更新者に偏りが見られるため、具体的に記事をアップする方法を考えていく。 ・年度途中から、Instagramの開設を行い、本校の教育活動をタイムリーに掲載することができた。 ・各課の定期刊行物も毎月掲載できるよう今後は呼びかけを行う。
	校務ＩＣＴ化の推進による業務改善	・校務支援システムと各種アプリを活用して業務の精選と情報の共有によって円滑な組織運営を図り、働き方改革を推進する。	B	・校務支援システムと各種アプリの活用により、少しずつではあるが校務の効率化を進めることができた。 ・庶務システムが導入されたが、まだまだ業務の精選には至っていないのが実情。今後は事務課と連携し、円滑な組織運営を行う必要性を感じた。	・校務支援システムと各種アプリの活用を引き続き進めていく。また、教職員１人１台端末の活用及び充実を図り、庶務システムを有効活用し、働き方改革を推進する。
	ＰＴＡ活動の充実	・多くの保護者が参加しやすいPTA活動になるように、学校通信やHPで呼びかける。	B	・役員を中心にPTA活動への意欲的な参加があった。	・より参加しやすいPTA活動になるように工夫していきたい。
２ 学習指導	教科指導の充実	・生徒１人１台端末を使って、分かる授業、達成感のある授業に努め、学習に対する興味･関心を持たせる授業に取り組む。生徒による授業評価アンケートを活用して、授業改善を図る。 ・教員のＩＣＴ機器活用のスキルアップのための研修会を年間３回実施する。 （A:３回　B:２回　C:１回） ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習取り組む態度」の三つの観点による評価について、教員間の共通理解を図るとともに、生徒へのフィードバックを適切に行う。 ・数学・英語においては習熟度別クラス編成を行い、個々の学力に応じた学習指導を行うと同時に確かな学力の定着を図る。	B	・生徒一人一台端末については、日常的に使用できるようになっており、ロイロノートでの課題提出や連絡、パワーポイントやＷｏｒｄを用いての課題作成などが行われている。 ・習熟度別での学習や、放課後に定期的に補習をおこなうことで、基礎学力の定着を図っているが、欠点の保有者数が多かった。基本的な生活習慣・学習習慣を身に付けさせることも必要であると考えられる。	・引き続き分かる授業、達成感のある授業を目標としていきたい。ＩＣＴ機器の活用については、一斉研修だけでなく、他教科の授業や他校での実践を積極的に取り入れ、校内で情報共有してしていく意識が必要である。 ・基本的な学習習慣や基礎学力が身についていない生徒も多いため、普段の授業での取り組みや課題の提出を徹底できるようにしていく。また、定期考査や基礎力診断テストにしっかりと取り組ませることで、学力の向上を図り、達成感を味わうことができるようにしていきたい。

評価は5段階(A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった)とする。

	家庭学習習慣の定着及び基礎学力の定着	・家庭学習時間調査を活用して定期考査期間の学習意識の向上に努める。また、家庭学習習慣の定着を図るため各教科で課題を設定するとともに、一人一台端末を活用した課題の設定を推進していく。 ・漢字テスト平均点85点以上や数学計算テスト平均点75点以上などの具体的な目標を持たせ、自主的に学習に取り組む態度を養い、基礎学力の定着を図る。 （漢字テスト　A:85点以上、B:84～80点、C:79～75点、D:74～70点、E:70点未満） （数学テスト　A:75点以上、B:74～70点、C:69～65点、D:64～60点、E:60点未満） ・安易な欠席・遅刻をさせず、皆勤者率50％以上を目指す。全員皆勤の日を意識させ、皆勤に向けた雰囲気を学校全体で作っていくとともに、欠席した生徒への連絡や保護者との連携を図る。 ・（A:50％以上、B:49～45％、C:44～40％、D:39～35％、E:35％未満） 資格取得に積極的に取り組ませることで、学習意欲の向上に努める。	B	・家庭学習時間調査の結果から、定期考査前の家庭学習時間の確保が不十分であると思われる。しっかりと学習時間が取れている生徒もいるが、個人差が大きく、全体として意識の向上を図る必要がある。 ・漢字テスト、数学テストともに昨年度よりも平均点が下がっており、目標を達成することができなかった。皆勤率は47.8％と昨年度と比べて改善されており、全員が皆勤であった日も増加している。担任、学年を中心として、欠席傾向のある生徒へ早めの指導をしていただいた。 ・資格取得については、全校生徒のうち約80％の生徒が１つ以上、延べ842の資格を取得している。昨年度よりも資格習得に積極的に取り組む生徒が増えており、今後も積極的に資格習得に取り組ませ、学習意欲の向上に努めるとともに、進路実現に役立てさせたい。	・各教科で課題の工夫や小テストなどを取り入れることで、学習習慣を身に付けられるように工夫する。 ・漢字テスト年13回、数学計算テスト年７回実施を予定する。数学科、国語科と連携した指導を行い、基礎学力の定着を図る。漢字テストでは平均点80点以上、数学計算テストでは平均点75点以上を目標にする。 ・学習目標や進路目標を持たせ、安易な遅刻や欠席をしないよう、進路課とも連携して目的意識を持たす指導を行いたい。また、欠席が続く生徒について職員全員で共通意識をもって早めに対応できる雰囲気づくりを行いたい。
３ 生徒指導	基本的生活習慣の確立	・さわやかで気持ちの良い挨拶や返事、正しい言葉遣いができる生徒を育成する。 ・家庭との連携を深め基本的生活習慣を確立し、いじめや問題行動の未然防止と早期発見に努める。	B	・「正しい言葉遣いや元気な挨拶ができている」では、昨年に続きよい評価であったが、まだま ・だ不十分である。 「保護者との連携が十分とれている」では、保護者からの評価を得ていて担任の努力が伺え ・る。 ここ数年、全体では５分前登校ができていない生徒が減少しているが、ぎりぎりで登校したり、遅刻や安易な理由での欠席が多いと感じる。	・教員は生徒に対して毅然とした態度で接することを心掛け、規則・マナーを守らせる。 ・様々な場面や集団で、時間・提出期限・身だしなみ・けじめをつける指導を行う。 ・無断アルバイト、深夜徘徊や外泊をさせないよう家庭・地域と連携して、問題行動を未然に防ぐよう努める。
	個別指導の充実と教育相談の推進	・個人面談を１人年間３回以上実施し、きめ細かい心の通う生徒指導に努める。 （A:3回以上、B:2回、C:1回、D:0回） ・家庭との連携を深め、不登校の未然防止と早期発見に努める。	B	・生徒全員の家庭訪問が実施できているわけではないが、一人一人の状況に合わせ、年３回以上の面接を目標に必要に応じて個人面談や家庭訪問を実施しきめ細かい指導を心掛けている。 ・教育相談課と協力していじめや不登校生徒に適切に対応した。中学校時代からのかかわりをそのまま高校に持ち込んでいる生徒がいる。	・面接週間以外でも生徒の様子を観察し、必要に応じて電話連絡や家庭訪問を行い、いじめ・暴力・不登校の早期発見・早期対応に努める。保護者の関わり方についても理解と協力を得る必要があると感じた。 幼い生徒が増えており、相手の気持ちを考えた行動や、周囲に気を遣わせない態度など、具体的に注意することが必要だと感じた。また、支援を必要とする生徒の対応について教員が理解を深めたり、研修する必要がある。

評価は5段階(A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった)とする。

	自ら行動できる生徒の育成	・規則を遵守できる判断力のある人間の育成に努める。 ・誰が見ても端正で清潔感のある身だしなみを自主的に身に付けることができる学校づくりを目指す。 ・自分の身は自分で守るという意識を持たせ、交通ルールやマナーを守る態度を育てる。 教室の整理整頓や、施錠を確実に行う態度を養う。 ・携帯電話使用の適切なルール・マナー・モラルを身に付け使用できる生徒を育成する。	B	・近年、生徒の規範意識が高まり、校則や身だしなみの違反者が減少しているが、頭髪については時代に合わせた指導の在り方を考える必要がある。 ・地域からの「元気な挨拶ができ、行動が良くなってきている。」という評価が定着しつつある。 ・交通事故は０件であった。 ヘルメットの紐を調整させることと、見えない所で着用していないことについて街頭指導を行った。法律改正に合わせて、スマホのながら ・運転に関して事あるごとに注意喚起を行った。 盗難に備え、教室の整理整頓や移動教室時の施 ・錠する意識を高める必要がある。 校内での携帯電話不正使用は、登校時に預ける生徒が多いので、減少している。	・ＨＲ活動で道徳教育を行い、規範意識を身に付けさせる。また、自主的に身だしなみを整えられるよう意識させ、校外での制服の身だしなみの乱れを減少させる。 ・原付通学生には引き続き安全教室、メーター確認を月毎に実施するなど違反・事故防止に努める。 教室、部室の鍵の管理は各クラス、部で責任を ・持って管理できるよう徹底する。 ＨＲ活動で携帯電話やＳＮＳのルール・マナー・モラルについて指導し、トラブルになりそうなときには、自分たちで解決したり、注意し合えたりできる環境を整えるよう指導したい。
４ 特別活動	部活動の活性化	・部活動加入率100%を目指して活性化を図り、学校を元気にする。 (A:100%、B:99～95%、C:94～90%、D:89～85%、E:85%未満) ・県総体出場者50人以上を目指す。 (A:50人以上、B:49～45人、C:44～40人、D:39～35人、E:35人未満) ・県高校総合文化祭出場者30人以上を目指す。 (A:30人以上、B:29～25人、C:24～20人、D:19～15人、E:15人未満)	B	・加入率は97%であるが、運動部への加入人数は減少傾向が強い。 ・県総体へは27名が参加したが、チームスポーツが参加できず目標に届かなかった。高文祭参加者も28名とやや目標を達成できなかったが、生徒数減少の中、大会等において成果を上げている。運動部において、新人大会や選手権大会で、人数が足りないこともあるが、他の部活に協力してもらったり、他校との合同チームで参加できた。文化部も活動時間が確保され、発表会や出品など関係行事への積極的な参加が増えた。	・運動部の部員不足により、合同チームでの参加が増えている。また、部活動改革や学校統合計画に向け、部活動の魅力化と活性化について検討しなければならない。
	豊かな人間性の育成	・ボランティア活動等へ一人年間２回以上自主的に参加することを促し、公共心や思いやりの心を育む。 (A:2回以上、B:1.9～1.5回、C:1.4～1.0回、D:0.9～0.5回、E:0.5未満)	C	・新型コロナウイルスにより、少なくなっていたボランティア活動への参加の機会は少しずつ増えてきた。多くの地域の行事、イベントが以前に戻りつつあり、ＶＹＳや部活動単位、有志の参加も増えてきた。	・部活動やクラス単位で実施したり、誰でもボランティアに参加しやすいように、情報の提供を行う。
５ 進路指導	キャリア教育の充実	・生徒が自己の生き方について考え、学期ごとに振り返りができるよう、キャリアパスポートを有効活用する。 ・３年間を見通した進路指導計画の下、有用な情報をタイムリーに提供し、生徒および保護者の進路意識の高揚に努める。	B	・キャリアパスポートの活用において、使用状況に差があり、十分に振り返りを促すことができなかった。 ・有用な情報をタイムリーに提供したが、生徒や各家庭の進路に対する関心には差が大きいと感じた。	・キャリアパスポートの活用例を提示するなどして、利用状況の差を少なくしたい。 ・有用な情報をタイムリーに提供し、必要とする生徒に確実に配布できるようにしたい。
	就職指導の充実	・地元企業や職安等の関係機関と連携を密にし、求人の確保に努める。 ・合同企業説明会の事前、事後指導を充実させて、地元企業への理解を深めさせ、就職活動に対する意識を高める。 ・面接指導や履歴書指導の充実に努め、就職希望者の決定率100%を目指す。 (A:100%、B:99～90%、C:89～70%、D:69～50%、E:50%未満)	B	・ガイダンスなどで企業や関係機関と連携を密にし、求人を確保できた。 ・企業説明会の事前、事後指導において、個別の指導を充実させる必要を感じた。 自己の適性が把握できず、職種の決定に迷う生 ・徒がいたため、決定率は98%だった。 (A:100%、B:99～90%、C:89～70%、D:69～50%、E:50%未満)	・ガイダンスなどで企業や関係機関と連携を密にし、互いのニーズを把握したい。 ・企業説明会の事前、事後指導において学年団を巻き込んだ指導へと発展させたい。 ・適性を早い段階から知れるよう、各種適性検査の結果などを用いた指導を充実させ、生徒の自己理解を深化させたい。
	進学指導の充実	・個に応じた細やかな学習指導を徹底し、生徒の資質の向上を図り、進学希望者の合格率100%を目指す。 (A:100%、B:99～90%、C:89～70%、D:69～50%、E:50%未満)	A	・個に応じた細やかな学習指導を実施できた。進学希望者の合格率100%を達成した。 (A:100%、B:99～90%、C:89～70%、D:69～50%、E:50%未満)	・本人やクラス担任と連携して、進路目標を共有して個に応じた細やかな学習指導、進路指導を行いたい。

評価は5段階(A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった)とする。

６ 農業 教育	入学志願者数80人以上	･A:志願者数80人以上、B志願者数70人以上、C:志願者数60人以上、D：志願者数50人以上、E:志願者数50人以下	C	61名の志願者数であり、目標を達成できなかった。全校生徒数も減り続けており、一層努力したい。	入学志願者数８０名以上が達成できるよう努力する。
	農業クラブ活動の充実	･出場した各種発表、各種競技会での入賞を目指す。 （A：入賞率100%以上、B：入賞率80%以上、C:入賞率50%以上、D:入賞率20%以上、E:入賞率10%未満）	C	各種発表県大会、家畜審査競技県大会、フラワーデザイン競技県大会、農業クラブ四国大会、全国大会（鑑定競技・プロジェクト発表）の出場機会が25種目あり、入賞数が13種、入賞率52%であった。それぞれの担当部署で努力していただいた。	入賞を目標に取り組むことも大切であるが、生徒一人ひとりの成長の機会となる指導が大切であると考えている。入賞率を目標にすることは大切であるが、指導の充実度を見る目標設定でもよいと感じている。
	地域に開かれた学校	･農業祭や地域行事などに積極的に参加し、地域住民との交流や地域に貢献する生徒を育成する。 （A:年間25回以上、B:年間20回以上、C:年間10回以上、D:年間５回以上、E:年間５回未満） ホームページ等を利用して、農業教育の魅力や学習成果の情報発信を行う。 （A:週5回以上、B:週4回以上、C:週3回以上、D:週2回以上、E:週1回未満）	C	･大洲産業フェスタ、愛たい菜など外部のイベントに8回、うきうきわくわくスクールが5回、13回参加した。 ･ホームページの更新や情報発信、JA機関誌、広報おおずなどへの掲載でＰＲ活動は行うことができた。	･「イベントや行事に参加すればよい」といった形骸化した雰囲気も感じられるが、参加生徒は明るく接客を行ったり、準備片付けを行うなど段取り力が身についてきていると感じる。教員の多忙感があり、回数は少なくして目標設定を行いたい。
７ 環境 教育	豊かな自然を大切にする心の育成	･環境を意識させる授業の展開。授業において環境問題や農業とのつながりを理解し、実践させる。	A	･それぞれの授業において常に意識して活動できた。	･来年度も同様に継続するか、達成できた目標なのでなくしてもよいのではないかと考えている。
８ 人権 教育	平和と人権を大切にする心の育成	･生徒人権委員会が月毎の人権標語をショートホームルーム等で紹介し、人権について考える時間を作る。 ･生徒人権委員会の活動内容を「人権だより」に掲載したり、人権教育集会を通して全校生徒に知らせ、人権意識を高める。	B	･生徒人権委員が人権標語をショートホームルームで紹介し、人権について考える時間を持った。 ･ 生徒人権委員会の活動内容を「人権だより」や人権教育集会で共有した。	･生徒人権委員会が毎月の人権標語を紹介する際に作成者の思いも一緒に紹介する。 ･生徒人権委員会の活動内容を人権委員会報告として全校生徒に知らせ、人権意識を高める。
	教育相談の充実	･「いじめと教育相談に関するアンケート」を学期に１回実施し、いじめや悩みの早期発見・早期解決に努める。 ･教育相談室には相談員が常駐し、生徒が気軽に相談できる環境を作る。	B	･「いじめと教育相談に関するアンケート」を学期に１回実施した。 ･教育相談室に相談員が常駐し、生徒が相談しやすい環境作りに努めた。	･「いじめと教育相談に関するアンケート」を学期に１回実施し、いじめや悩みの早期発見・早期解決に努めたい。 ･生徒が気軽に相談できる環境作りをしていきたい。
	家庭や地域と連携した人権教育の推進	･生徒人権委員会による地域での交流活動等を年間４回以上実施する。 ･「人権だより」に保護者や生徒の感想等を掲載する。	B	･生徒人権委員会と有志による地域での交流活動を年間４回以上実施した。 ･「人権だより」で生徒人権委員会の活動報告を行った。	･生徒人権委員会による地域での交流活動を積極的に行いたい。 ･「人権だより」を通して、生徒人権委員会の活動を共有していきたい。
９ 情報 教育	情報活用能力の育成	･生徒１人１台のパソコンの導入に伴い、知識や活用技術を身に付け、授業に活用できる能力を養う。 ･情報セキュリティに対する教職員の意識を高め、ＩＣＴの普及に対する適応力を養う。 ･ＨＰやＳＮＳを活用し学校の情報を積極的に発信する。	B	･teams等でアンケートを実施するなど活用される場面が増えてきた。 ･情報セキュリティについて職員会議において講習会を実施した。ICTの利用頻度の増加により教 ･職員の意識や技能も向上している。 ＨＰは毎日の更新を目標に各担当の学年･課で意欲的に取り組めた。今年度からインスタグラムの運用を開始した。	･教職員のＩＣＴの活用する場が増えたので、より実践的な能力や情報モラルの向上を図れるよう情報提供など増やしていきたい。 情報発信については今後より充実したものにしたい。
	情報モラル・コミュニケーション能力の育成	･パソコンやスマートフォン等を用いたインターネット、特にＳＮＳの利用について具体的な研修を行い、生徒の情報モラル・コミュニケーション能力の育成を目指す。	C	･1人1台のPCやスマートフォンを利用など、生徒にとって当たり前の環境になり情報モラルについて考える状況が増えてきた。情報モラルについて身近な課題として授業でも取り組めた。	情報Ｉの授業を通して、情報モラルや情報リテラシーのより向上を図り、コンピュータの基本的な操作やネットの活用やプログラミングなど便利な道具として利用ができるように取り組んでいきたい。

評価は5段階(A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった)とする。

１０ 図書 指導	読書習慣の定着	・朝の読書に学校全体で取り組み、活字メディアへの興味・関心を高め、日常生活の中で読書に親しむ態度を育てる。	B	朝読書に学校全体で取り組むことができた。読書アンケートで、朝読書で読んだ冊数が２冊以下の生徒が12%（昨年度66%）と、急激に増加し、10冊以上の生徒が21%だった。	・読書習慣を確立するため、朝読書の時間をしっかりと確保し、学校全体で引き続き朝読書に取り組んでいきたい。
	図書館利用の推進	・授業等、様々な場面で図書館を活用する機会を増やす。 ・図書の出張貸出や多様な本の紹介などを行い、図書委員会活動を充実させる。	C	・国語科など各教科の授業で図書館を活用することができた。 読書感想文発表会で本の紹介を行うことができた。	・授業を始めとして、様々な場面で生徒にも先生方にも図書館を利用してもらえるような働きかけを工夫したい。 本の出張貸出などの取組を充実していきたい。
１１ 学校 保健 学校 安全	心身の健康の保持増進	・保健指導や保健委員会活動を充実させ、自らの心身の健康に関心を持ち、管理・疾病等の予防ができる力を養う。 ・健康診断結果や保健室来室状況等をもとに、生徒の心身の健康課題を早期発見し、個別の声掛けや疾病予防の観点も含めた指導によって早期対応を図る。	B	・毎月の保健刊行物や掲示物によって、心身の健康に関する知識を生徒に提供した。保健委員会では環境衛生検査や掲示物の作成などを行い、保健・環境衛生への関心を高めることができ ・た。 健康診断後は個々への受診勧奨を行い、来室生徒の対応では関係教職員と連携を図りながら早期対応を行った。	・保健刊行物の内容や保健委員会活動を学校の実態に合わせて充実させ、生徒が自分事として捉えて行動できるように健康意識を向上させる。 ・二次検査の受診率を高めるために、個別の受診勧奨をより丁寧に行う。 ・保健室への再来室を予防できるように個別指導を行い、頻回来室者の割合を減少させる。
	学校の安全管理と環境衛生管理の徹底	・校内の安全点検（月１回）と実践的な避難訓練を実施し、安全のために自ら考えて行動する力を育成する。 ・感染症対策と環境衛生検査を確実に行い、校内の環境の維持や改善に努める。	B	・毎月安全点検を行い、危険個所や消火器の有無を確認している。年３回の避難訓練を実施し、安全意識を高めることができた。 ・感染症対策のための喚起を呼びかけ、学校薬剤師の先生に助言をいただきながら、保健委員と定期の環境衛生検査を行った。	・毎月の点検で校内の安全を確認し、関係機関と連携を取りながらより実践的な避難訓練を実施する。 ・日常の点検や定期検査を計画的に行い、校内の環境衛生を良好に保つよう努める。
１２ 学校 行政	施設設備の充実と施設維持管理経費の節減	・電子データ等を利用し、コピー機の使用カウンター枚数を前年度比95%を目標とし、節約の推進啓発に努める。	B	・電子等利用することにより、コピー機使用枚数が前年度比88%となっており、用紙節約につながっている。	・定期的に施設設備等の安全確認及び点検を実施し、未然に事故を防止するよう努める。

評価は5段階(A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった)とする。